

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071200622		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム 怡土		
所在地	福岡市西区大字徳永1065-1 〒819-0375 (電話) 092-807-7576		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価確定日	平成22年3月8日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 12 月 31 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人	非常勤 3 人 常勤換算 5.8 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての～		1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 75,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

## (4) 利用者の概要( 12 月 31 日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 朝菊会昭和病院、昭和歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

過去4年間、職員の入れ替わりは一切無く、利用者・家族・職員の馴染みの関係と信頼関係が構築されている。ややもすると馴れ合いになってしまう可能性がある中、利用者に対して、馴れ合いにならず常に尊敬の念を持ってケアにあたるように、その都度の指導が行われている。また、昨年行われた担当者の一部交代の実施は、ケアに対して新たな気づきを生むきっかけになるとともに、利用者と職員の馴れ合いの防止を図っている。利用者一人ひとりについて1ヶ月毎の状況等の変化や気づきを記したノートは、利用者の「今」が分かる情報の宝庫となっている。絶えずリビングに利用者が集っており、ソファに寄り添って寛ぐ利用者の姿から、安心して生活していることが伺えた。利用者の尊厳を常に意識し、利用者の心に寄り添うケアへの取組みを実践しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果については、運営推進会議時に報告を行うなどの取組みがある。この過程において、他事業所との連携のもと、近隣にある他のグループホームで行われる行事に、利用者共々出かけるなどの成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審にあたり、職員間で内容を振り分けて自己評価を行い、まとめるなど、職員がかかわっての自己評価への取組みがある。この過程において、ホームの現状や課題についての認識を深めるなど、質の向上に向けての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会役員、地域包括支援センター職員、家族代表等を招いて2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果やホーム状況についての報告の他に、地域行事等についての情報を得たり、家族からの要望が出されるなど、意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけ、その都度の電話、家族会や運営推進会議、手紙等を通じて、報告・説明を行うとともに、意見や思いの表出に努めている。出された意見等については、ミーティング時に協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の散歩時の声かけ、挨拶、地域の方からしめ縄作りを教わったり、系列施設で行われる陶芸クラブや夏祭りへの参加、ショッピングセンターへの買物、外食など、今出来る範囲で地域とのかかわりを意識しながらの取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	勉強会にて協議を行い、理念を見直し作成し ている。「地域の一員として生きがいのある暮 らしができる。」の一文を理念に入れ、地域と のかかわりを意識しながらの取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに理念が掲示されており、自然と目 に入る工夫がある。レクリエーション時に理念 を利用者とともに読み上げ、散歩時等に積極的 に声かけを行うなど、理念を意識しながら業務 に携わっている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日常の散歩時の声かけ、挨拶、地域の方から しめ縄作りを教わったり、系列施設で行われる 陶芸クラブや夏祭りへの参加、ショッピングセ ンターへの買物、外食、中学生の職場体験の受 入れなど、今出来る範囲で地域とのかかわりを 意識しながらの取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果については、運営推進会 議時に報告を行うなどの取り組みがある。また、 外部評価結果は、自由に閲覧できる。今回の外 部評価受審にあたり、職員間で内容を振り分け て自己評価を行い、まとめるなど、職員がかか わっての取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果やホーム状況についての報告の他に、地域行事等についての情報を得たり、家族からの要望が出されるなど、意見交換が行われている。		全家族への運営推進会議の議事録の送付等を通じて、運営推進会議の持つ意味合いの更なる周知と様々な情報の発信への取組みに期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加が見られる。運営推進会議時に、地域包括支援センター職員より成年後見制度についてのレクチャーを受けたり、行政担当者へ様々な相談を行いアドバイスを受けるなど、質の向上に向けた取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に、地域包括支援センター職員より成年後見制度や日常生活自立支援事業についての講義を通じて、職員は学びを得、家族等へは情報提供を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、その都度の電話、家族会や手紙等を利用して報告・説明が行われている。年に3回発行の“新聞”の送付を通じて、暮らしぶりを知らせる取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、その都度の電話、家族会や運営推進会議、手紙等を通じて、意見や思いの表出に努めている。出された意見等については、ミーティング時に協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この4年間、職員の入れ替わりは一切無く、馴染みの関係が構築されている。定年を迎えた職員の継続雇用に努めるなど、利用者への影響を考慮した取組みがある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時の制限等は、一切行われていない。産前産後休暇後の職場復帰や定年を迎えた職員の継続雇用、子供の行事にあわせた勤務調整、有給休暇の取得など、働きやすい職場環境づくりへ取り組んでいる。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての行政等で行われる講話への参加や、ホーム内での勉強会を通じて、人権教育や啓発活動への取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示しての外部研修への参加の機会を確保している。ホーム内では、勉強会の責任者を職員間で回して、職員が主となって取り組むなど、職員のスキルアップへ取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある他のグループホームで行われる行事に、利用者共々出かけるなど、少しずつであるが交流・連携に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談等により得た情報を基に、職員間で情報を共有し、円滑に馴染めるように支援している。入居直後は、利用者に寄り添い、見守り、状況に応じた声かけを行うなど、利用者を尊重した支援への取り組みがある。		
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶の入れ方やお箸の持ち運び方など、女性としての細やかな気配りを学ぶなど、日常のかかわりを通じて、自然と学びあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、利用者の何気ない一言や表情などから利用者の思いや意向の把握に努めている。利用者一人ひとりの状況等をノートに記すことで情報の共有が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、利用者・家族の意向等を踏まえ、カンファレンスにて協議して、介護計画書を作成している。作成された介護計画書の内容は、利用者の希望や能力に着目した内容である。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヵ月毎及び状況変化時の見直しであるが、 利用者の直接的なケアにかかわる内容に関し ては、適宜カンファレンスにて協議が行われ ている。利用者一人ひとりの1ヶ月毎の状 況等の変化をノートに記すことで、情報 の共有が図られている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じた、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	趣味のクラブ活動への参加支援、利用者 と一緒に他のグループホームで行われ る行事への見学や希望に応じた外出 支援など、その時々に応じた支援 がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられる ように支援している	契約時に、ホーム協力病院といま までのかかりつけ医の利用につ いて説明を行い、利用者・家 族の希望に沿って支援してい る。ホーム協力病院への受診 支援や必要に応じて専門医 療機関と連携を図るなど、適 切な支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびに かかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	契約時に「重度化に伴う対応 について」を説明し、同意を 得ている。また、書面にて ターミナルについての利用者 及び家族等の意向の把握に 努めているが、家族等の意 向が難しく、全家族の意向 の把握にまでは至っていない。		アンケート方式で、キーパー ソンである家族等の意向の 再確認と把握に努められ、 アセスメント内容の充実と 情報の共有への取り組みに 期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して、馴れ合いにならず常に尊敬 の念を持ってケアにあたるように、その都度の 指導がある。昨年行われた担当者の一部交代の 実施は、利用者と職員の馴れ合いの防止に一役 買っている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての一応の流れはあるものの、食 事を始めるタイミングや食事のペース、一日の 過ごし方、外出のタイミングなど、利用者の ペースに合わせた支援が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の世界を尊重し、無理強いすることな く、利用者の食べやすい方法での食事支援が行 われている。利用者が自主的に行う下膳の様子 を、暖かな眼差しと声かけで見守る職員の姿が 印象的であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週3回の入浴の設定であるが、利用者の希望 や状況により、毎日の入浴も可能である。一番 風呂への対応、個人用のシャンプー類の使用な ど、利用者の希望に応じて支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	歌、陶芸、習字、新聞、花の手入れ、食事の 盛り付け、掃除等、利用者一人ひとりの全体像 を把握し、精神面での支援を第一に捉え、日々 の張り合いや生きがいとなるような取組みがあ る。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日課としての散歩やお参り、その時々 の希望に応じての外出、行事としてのショッ ピングセンターへの食事を兼ねた外出、季節 の花見など、戸外に出ることを意識した支 援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関は自動ドアであり、押しボタンにより開 閉することができ、利用者は自由に出入り可 能。職員は利用者の状況に応じた声かけや、一 緒に外出するなどの対応を通じて、利用者 の自由な暮らしと安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、併設施設と合同の避難訓練の実 施がある。運営推進会議時に災害時の話題 が出るなど、非常災害時の協力を得るた めの働きかけが、実を結びつつある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	併設施設の栄養士が作成したメニューに 従って、厨房で調理している。カロリー や栄養バランス、食材、見た目等を考 慮した献立内容である。利用者の状 況により、小さく切り分ける、トロ ミをつける、お粥の準備など、柔軟 な対応がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、天井が高く、天窓を利用するな ど、ビルの中という圧迫感を感じさせない工夫 がある。リビング内には、さりげなく季節の花 が飾られ、ソファに寄り添って寛ぐ利用者の 姿から、居心地のよさが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、趣味の絵や書、写真、植物、ぬい ぐるみなどの馴染みの物が持ち込まれており、 居心地良く過ごすための居室づくりが行われて いる。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号